



VOL.170
AUG.2013

かかしわ市議会だより

第 170 号

平成 25 年 8 月

発行 柏原市議会

編集 市議会だより編集委員会

柏原市 安堂町1番55号

電話 972-1501(代表)

FAX 971-8932

Eメール gikai@city.kashiwara.osaka.jp

第6回議会報告会を開催

～柏原市議会は「開かれた議会」をめざしています～



5月10日(金) 太平寺老人集会所



5月10日(金) 石川町第2老人集会所



5月13日(日) 市民プラザ(アゼリア)



5月13日(日) 国分図書館

○議会報告会での報告内容

<報告1>平成25年度予算について

<報告2>竜田古道の里山公園調査特別委員会報告について(中間報告)

○アンケート調査(一部抜粋)

- ・市民病院をこれから どうするか考えて
- ・柏原市民病院赤字というのに職員の教育を考えているのか
- ・書類の依頼をしたら 市民病院は「連絡してくれ」という不親切である。支払のカード払い導入

柏原市議会は議会改革の一環として、市民に開かれた議会をめざし報告会を4会場で開催いたしました。

- ・報告会の回数をもっと増やして欲しい。
- ・市民の代表だから、市民の声を議会に反映して欲しい。
- ・柏原市民がもっと増えて豊かな市になるように欲しい。
- ・学校の耐震化もっと早くして欲しい。3年後では遅すぎる。
- ・竜田古道公園よく調べて責任を取らせるようにして欲しい。

こんなことが決まりました

条例の制定等

柏原市子ども・子育て会議を設置

教育保育施設の利用定員等を審議する

入院にかかる医療費の助成を拡大

小学校終了前までの入院費助成を中学校終了までに延長

放課後児童会の開会時間を延長

開会時間を午後6時30分迄に延長
(150円/1回)

補正予算
4億5,100万1千円
を審議

集会所修繕費等補助事業

500万円について

集会所の修繕費用を一部補助

妊婦健康診査料の助成制度

拡大について

助成費66,400円を116,840円に増額

市民祭り補助金2,000万円

について

花火、河内音頭
まつり等への
補助金として
支出



組み替え動議提案理由

私たち柏原市議会は、議会改革特別委員会を立ち上げ、市民に信頼される議会、議会の向上にむけ議論を重ねてきた。しかしながらまだまだ道半ばである。議案の提出や政策の提言は市長だけが行うのではなく、同時に議会も活発に行う必要があると考え今回の提案となった。トイレ設置は歴史の丘公園内だけでなく、石(いわ)神社に隣接する太平寺会館の前で、現在は会館や地元の団体の備品倉庫になっている。現段階で地元住民との協議も十分にされていない。また、大阪府からも一切補助金は出ない。トイレが設置されても市民の利用は少ないと考え

る。公園から100メートルほど歩けば、柏原市立第2体育館もありトイレを利用でき、完成は来年の3月ごろの予定である。今年度トイレを設置するよりも、子ども医療費助成制度を通院に対し拡充すべきである。大阪府下43市町村中、今年度内に実施される数を含めると半数以上の22市町村が通院に対し、上は中学校卒業まで、下は小学校1年生以上を対象にしている。25年度の大阪府下の子ども医療費助成制度の特徴を見ると、通院に対し小学校1年生以上の拡充が競うように行われている。子育て世代の通院に対する子ども医療費助成制度の年齢拡充の二ツズは大変高いものがある。よってトイレを設置する予算と、こども医療費助成制度の通院を小学1年生までに拡充する予算の組み替えを提案する。

修正動議提案理由

3市のゴミ最終処分場「竜田古道の里山公園維持管理費」提案であるが、昨年の平成24年度柏原市一般会計予算審議の際も「竜田古道の里山公園は、柏羽藤環境事業組合のゴミ最終処分場の跡地利用を組合が約束したものであり、公園の設計、施工費までも、柏原市、羽曳野市、藤井寺市、3市が共同で出資し、整備された公園であることから維持管理費においても約束通り、相当額の出資を当該組合に求めること。」を全会一致で附帯決議している。その後、3市のゴミ最終処分場を環境事業組合議会や柏原市議会に諮られることもなく、柏原

市に貰い受ける覚書が3市長で交わされていることが発覚した。そのことにより、ゴミ最終処分場跡地利用公園の責務が柏原市に移ったことになり納得のいかない維持管理費の負担が生じた。平成25年度当初予算審議においても、ゴミ最終処分場跡地利用公園の「竜田古道の里山公園維持管理費」が柏原市単独の負担になるため、全会一致で予算を認めなかったところである。今回の提案も、柏原市単独負担であることに何ら変わるものないまま、再び市民負担を承知で計上されたことに対し、理解できない「竜田古道の里山公園維持管理費」519万9千円については、認めることは出来ない。以上により、歳入歳入において、それぞれ、519万9千円を減じる修正案を提出する。

反対討論

大阪ミュージアム構想の一環で歴史・文化的町並み再生に向け、太平寺地区の景観舗装整備や「歴史の丘公園」を整備し、懸案のトイレについて、設置場所の検討を重ね、和風の障害者対応トイレを設計し予算を上げたところ、見送ることを提案された。このトイレの設置場所については、不便な高台ではなく、観光客にとって最も便利の良いいわ石神社の下の1等地を、地元協力により用意していただいた。安堂の第2体育館のトイレまでは、簡単にはたどり着けない。歴史を学ばせようと来られるお子さん連れのお母さん、景観を楽しみながら

ブドウ狩りやワインの試飲に訪れようとする高齢者や障害者の方に、トイレで不自由な思いをさせてはならないと、私は思う。次に、私は、この子ども達の医療費助成のさらなる拡充を、ごなたも望んでいることはよく承知している。市長ご自身も、財源のない中その拡充の思いの中で、ギリギリのところを判断されたと思う。組み替え案提案議員も賞賛したこの条例改正案（中学卒まで入院助成拡充）について、施行される以前に、もうすでに不服として、さらに医療費助成拡充案を提出される。しかも、対象は、小学1年生のみで、来年度以降は考えない、なんら継続性も計画性もない。議員は、真剣に市民のため、順序立てて議論を尽くし、市長との信義のもと、順々に要望されるべきである。

賛成討論

歴史の丘展望台公園整備事業及び維持管理費、総額1,274万8,000円を使いトイレを設置する事業を来年度以降に見送り、子育て世代のニーズが高い医療費助成制度の拡充に組み替えを求めるものだが、公衆トイレ設置に反対するわけではない。ただ、今回の補正予算で行う必要性があるのかということだ。市民の税金を使うのであれば、子育てナンバーワンをめざす柏原市として、また他の自治体も力をいれている「子ども医療費助成事業を優先させるべきではないか」の思いだ。今回の補正予算で、入院を中学校卒業するまで助成する

予算を計上されたことは、高く評価する。小学生になると病気は減ると思うが、喘息やアトピー、鼻炎などの病気は急には治らない。子どもが鼻炎で通院されているお母さんから「毎週4日分薬をもらって治療を受けても、今まで1か月1,000円で受診出来ていたが、4月から1年生になって医療費の金額を聞いて本当に驚いた。医療費の助成制度が本当にありがたいと思った。是非小学生も対象にして欲しい。」と切実な声を聴いている。今年度8月から小学1年生まで拡充の予算は800万円だ。仮に来年度1年間実施しても予算は、1,300万円。今年度の予算総額約235億円からみると1,300万円は、0.0005%と決して大きな負担にはならない。よって、子ども医療費助成を優先すべきと考える。

反対討論

「百条委員会」において吉田副市長は、「3月末、中野市長と共に、北川羽曳野市長（環境組合管理者）に面談し、竜田古道の里山公園については、岡本前市長との話し合いを白紙に戻して欲しい、首長が変わったので新市長の考え方でお願いしたい」と述べている。また、建設産業委員会、中野市長は、「竜田古道の里山公園の問題の交渉がうまくいかなかった場合、最悪、新しいごみ最終処分場を閉鎖してでも、問題解決に全力を尽くす」と述べている。中野市長は就任に際し、「グレート・リセット」を宣言され、議会もそのことを信

頼し、この問題に関して取り組み方を大きく転換、すなわち「グレート・リセット」して中野市長と議会が力を合わせ「市民の当然の権利」とも言うべき「竜田古道の里山公園」の維持管理費など関連の諸課題の解決に向けて立ち向かって行くべきである。同様の趣旨の発言を議会代表である議長が建設産業委員会の席上、同委員会のメンバーとして「この問題解決に向けて中野市長と力を合わせ一緒に交際して当たることには、努力を惜しまない」と述べている。これらの発言から判断して、議会として今回の中野市長から提案された「竜田古道の里山公園」維持管理関連予算については修正を加えることなく可決することが望ましいとの結論に達した。

賛成討論

柏原市の構想で3市のゴミ最終処分場跡地をもらい、上面を都市公園として整備したものならば、柏原市が単独で維持管理を支出することは妥当であると考え。しかしなぜ、柏原市単独なのかという疑問を解明するために百条委員会を立ち上げ、誰がこの公園の維持管理費を支出するのが妥当かを調査し、柏原市にその責任が無いことを確認したところである。にもかかわらず、今回、柏原市単独で負担することに意義を唱えないのか？ 私たち議員は市民の代理人である。柏原市議会がこの予算を認めてしまえば3市組合側としても、維持管理費を

出す必要性を感じず、理解せず未来永劫に柏原市民の負担になってしまう。その維持管理費の負担が柏原市民の単独でなく藤井寺、羽曳野の3市民のゴミ処分場跡地を雁多尾畑地区のため、整備した公園として、応分の負担を頂いた時点でこの予算を認めるのが妥当だと考える。納得のいくお金を使うか、使わないかという審議に戻って考えていただきたい。前の市長だから、骨格予算だから認めない。新市長だから、政策的予算だから認める。という反対討論であったが、百条委員会で維持管理費の柏原市単独負担に疑問を呈しながら今回、組合からの歳入が無く、柏原市単独で負担する予算に賛成するのか理解に苦しむ。私は、公金の使い道を考えるとき、この修正動議に反対する理由はないと確信している。

清潔・公正な

開かれた柏原市政に

日本共産党

問 市民が主役のまちづくりをするためには何が必要かを問う。

答 市民が積極的に市政に参加するために、市民の皆様にあらゆる情報をわかりやすく提供する。

要望 市民協働で市民が主役のまちづくりを進めるうえで重要なことは、市の姿勢つまり市長の政治姿勢である。日本共産党柏原市議員団は昨年市民アンケートをとった。柏原市政に対しては、「少し不満」、「大いに不満」が70パーセントもあった。

復活・かしわら花火大会の

成功を！

市民・民主クラブ

問 「かしわら花火大会」の実施内容について問う。

答 市議会をはじめ、市民からの再開を望む多くの声を受け、市民総合フェスティバル実行委員会では、本年8月24日に市役所前河川敷緑地公園にて、市民郷土まつり「かしわら花火大会」の開催実現に向け、協議されている。

実施予定内容は、当日夕刻より河内音頭おどり全国大会の後、花火を打ち上げるもので、商工会を中心に市内企業等から協賛

次に、柏原市政に特に取り組んで欲しいものの問いでは、上位を占めたのが、「税金のむだ使いをやめる」、「清潔・公正な開かれた市政」であった。結果からも「市民協働」及び「市民が主役のまちづくり」には、まだまだ問題がある。だからこそ市長は、「清潔、公正、開かれた市政」、「暮らし最優先で社会的弱者を守る市政」に切り替えていく必要がある。今、多くの柏原市民の暮らしは、物価が上がる中、年金は減り続け、所得は減少している。同時に国の社会保障制度の改悪で、暮らしの困難さに拍車がかかっている。「清潔、公正、開かれた市政」に切り替え、市民の暮らしを守りながら、財政再建も着実に進めていく中でこそ、市民と市役所の協働が進められ、本当の意味での「市民が主役」のまちづくりになる。

金を募り、「かしわら花火」の費用に充て、企業の広告花火として打ち上げることで、市内企業のPRを行なっていく。

一方、警備等の安全対策については、特に関係機関と連携を図りながら、花火大会開催に向けて支援してまいりたいと考えている。

問 まずは、「かしわら花火大会」の復活実施を英断された市長に、心から感謝申し上げる。

今後花火大会を続けていくのか。

答 関係各位の協力を得て、毎年、日時を固定化し、続けてまいりたいと考えている。

要望 今回の「かしわら花火大会」の実施に向けて、警備等、安全には万全を尽くし、今後も、すばらしい花火大会を実施していただくよう強く要望する。

今後の柏原市の

教育の取組について

自由民主党政新会

問 独立行政である教育委員会への市長のかかわり方を問う。

答 私は、教育はかけがえない財産であると考えている。地方教育行政法では教育の内容にかかわる職務は首長から独立した教育委員会の専権事項と規定している。市長がその権限に踏み込むことは法の趣旨に反すると理解している。教育の中立性や独立性は大切ではあるが、教育委員会の制度改革が先送りできない時期になってきており、現在、文科省の中教審でも改革の議論が進

中野市長のキーワードは

柏原の「グレートリセット」

柏原維新の会

問 市長は市政運営方針前文で「柏原再生のためのグレートリセット」を行い、スタートの第一歩を踏み出すと述べている。市政運営の重大なキーワードだと思うが、「柏原再生のためのグレートリセット」とは、具体的にどのようなことなのか問う。

答 柏原市におけるグレートリセットとは、これまでの市政運営の成果や課題を含め、様々な角度から今後の行政運営をどうあるべきか見直すという意味である。

問 大阪維新の会の維新八策で同じ表現

んでいる。私はこの度の柏原版教育振興基本計画策定にあたり、これらの動向を見定め、市長としての、よりよい教育のあり方への思いを語り、教育を通じてのまちづくり、人づくりを進め、ひいては柏原市が教育先進市としてアピールできるように様々なアイデアや要望を出してまいりたいと考えている。今後の10年間を見据えて市長部局と教育委員会が協働し、総合的で斬新な教育計画を策定することが必要と考え、次世代を担う子供達の育成に向けて、府下のどこにも負けない充実した教育環境づくりに努めてまいる。

要望 これからの教育は、自立できる人材育成、良いもの悪いものの判断できる人づくり、知識と人間形成との両面において対応できる人づくりをお願いする。

が使われている。大阪維新の会が使うグレートリセットについては、橋下代表がタウンミーティングで具体的な意味を問われ、「私は大阪市役所をつぶす、大阪府庁もつぶす、つぶすと言っている。修理はもういい、つぶす！これ以上ハッキリした主張はない、これがグレートリセットだ。」と答えている。橋下市長の言う、「大阪再生のためのグレートリセット」と中野市長の言う「柏原再生のためのグレートリセット」とは同じ意味と受け取ってよいのか。

答 同じではない、良いものは良い、そうでないものはより良くするとの意味だ。

要望 全国的にも珍しい大阪維新の会公認市長として、同じ方針なのか市民も関心がある。現状をよく洞察し、リセットすべきは英断を持ってリセットしていただきたい。

地域担当職員制度で

新しい柏原市の歴史を！

公明党

問 前文 第六の協働推進「大阪ナンバワン」市長の考えを問う。

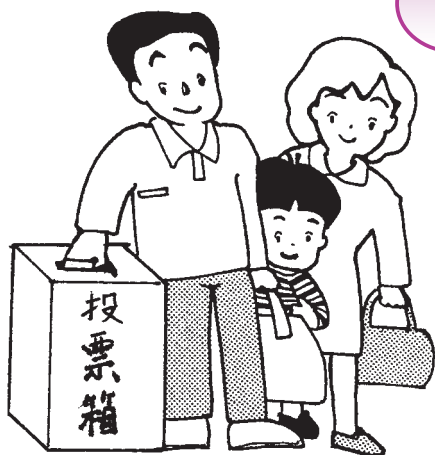
答 さらなる協働を推進するとともに、地域の声をくみ上げ、市民と行政とが協働して地域経営にあたるために地域担当職員制度を実施する。地域の特性に応じた課題を把握し、地域に密着した情報の提供や支援を行う。地域担当職員を通じた地域の提言やアイデアを受け、その内容に応じて庁内各関係課との調整を図るなど、その実現に向けてサポートしていく。本年度はスタ

ートの年にあたるので、町会、自治会を柱に市内にモデル地区を設置し、職員を数名程度配置していく。

要望

①OB職員の配置(各コミュニティ会館5〜6か所)②担当地域における「御用聞き」③総合相談役としての「御用聞き」④地域課題や住民意見を把握し、計画・施策へ反映⑤地域ごとの「まちづくり協議会」を立ち上げ地域の防犯、防災、見守り、子ども(大人)の居場所づくり、若い世代の地域おこし、元気な高齢者、介護支援ボランティア制度の導入、お元氣ポイントなど、地域担当職員制度を導入することのメリットは、地域の市民の方々の声がかたちになり、小さな予算で大きな成果が果てしなく得られることである。ぜひ積極的に取り組むことを要望する。

平成25年
9月8日(日)
は市議会議員選挙の
投票日です。



議案に対する代表質疑・質問から

放課後児童会

時間延長決定！

市民・民主クラブ

問 放課後児童会時間延長について問う。

答 現在の開会時間は、児童の安全確保を図るため5時まで実施している。保護者の就労形態の多様化、核家族化という社会情勢の変化から「お迎えを前提とした6時半まで延長」の要望が議員から再々出ていた。

今回、6時半まで延長できるよう条例を制定した。利用者には応分の費用負担、一日一人150円をお願いさせていただく。開会時間の延長は本年平成25年10月1日か

らの実施を予定している。

要望

今回、延長されることに対して、市長はじめ、ご努力いただいた皆様に心からお礼を申し上げる。

以前より何度かお願いをさせていただいたが、近年共稼ぎや、シングルの親の数も増え、核家族化で近くに親のいない状況である。放課後児童会にどれだけ助けられているか、働く親にとっては何物にも代え難い安心である。

保育所の預かり時間が延長されているので、小学校に行つたとたん5時まででは大変厳しいものがあつた。

府道関係の諸課題について

自由民主党政新会

問 国豊橋からJR高井田駅までの歩道拡幅や凍結されている青谷バイパスなど府道関係の諸課題について問う。

答 バリアフリー基本構想に基づく本堂高井田線の国豊橋からJR高井田駅までの歩道設置事業は計画予定地内に家屋が建築されており、移転が課題となっている。大和川河川事務所、八尾土木事務所そして本市が連携を図って協議し交渉を重ねてきたが、解決に至らない状況である。本市としては事業の必要性、緊急性を認識し大和川

工事事務所及び八尾土木事務所と今後も一体となって問題解決に取り組み、実現に向けて大阪府と連携してまいる。また、青谷バイパスについては平成24年3月に改定された大阪府都市整備中期計画案でも10年間当該路線は凍結状態であると聞いている。現状の道路では今後の高齢化社会において、雁多尾畑地区や青谷地区ではさらに影響を受ける。安全安心の道路整備事業の実現を目指し事業の凍結解除の要望を行っていく。

要望

市長は府議時代に柏原市の府道関係の諸課題に取り組んでこられた。重要性も認識されている。今回担当部局から前向きな答弁があつたが、中野市長でなくてはこの問題は解決できないと考える。地元の強い要望もある。府道関係の諸課題について尽力いただくよう強くお願いする。

未来に向けた道路整備を！

柏原維新の会

問 柏原市がさらなる発展を遂げるためには、中期・長期的な構想を持って、少しでも道路行政を進めていく必要があると考えるが、市の考えを問う。

答 本市の道路整備は、バリアフリー化の推進、道路改良の整備、広域的な交通処理を基本として進めている。

平成15年3月には、バリアフリー基本構想を策定しており、平成24年度末で整備率は76%となり、残る区間を中期的に進めていく。

広域的には、国道、府道、隣接市の広域交通網と接続する必要があり、そのため国、府、隣接市と連携を深めながら取り組んでいく。

要望 道路が混むというイメージが柏原市にある。

予算が無いからといって何もしないと、この先も道路が変わらない。

中・長期的な道路計画を立てて取り組むべきである。

また、西名阪柏原インターチェンジの奈良方面への接続や、国道25号の拡幅などについては、しっかりと国へ働きかけていただくことを、一方、近隣の八尾市に対しては、法善寺築留線を外環まで、早期に延伸、開通できるよう交渉していただくことを要望する。

中学校卒業まで拡充！

日本共産党

問 柏原市乳幼児及び児童の医療費助成の内容について問う。

答 入院は、中学卒業まで拡充され柏原市も入院にかかる医療費助成は大阪府下では最高水準に達する。

要望 これまで何度も要望し拡充されたことは、大変うれしく思う。柏原市では医療費の給付の方法は償還払いだ。隣の八尾市では、柏原市と助成制度の対象年齢は同じで、入院は中学卒業まで、通院は就学前までだが、現物払いだ。償還払いでもあと

で負担した額は戻るが、「給料日前に子どもが病気にかかっても財布の中身をみてちゅうちよする。」というぐらい子育て世帯にとつては、負担だ。その期間立て替えないければならないのが大変だ。せっかく助成されるなら、住民の側に立った親切的制度にして欲しい。現物払いを検討していただきたい。また、保護者の方はやはり歯科治療やぜんそくなど、小学校に行っても医療費が負担になる通院の拡充を望んでおられる。そのためには、国における乳幼児医療費助成制度の創設を求め、大阪府に対しては全国的にも最低レベルの2歳までの通院助成制度の引き上げを求めること。府が助成を引き上げれば、柏原市の負担も軽減する。国や府に拡充を求めるとともに、通院助成の引き上げを行うことを要望する。

6月議会で決めたこと

- ◇専決処分報告 平成24年度柏原市一般会計補正予算（第10号）
- ◇専決処分報告 柏原市市税条例の一部改正について
- ◇専決処分報告 平成25年度柏原市国民健康保険事業特別会計（事業勘定）補正予算（第1号）
- ◇専決処分報告 平成25年度柏原市公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）
- ◇竜田古道の里山公園についての調査の件（竜田古道の里山公園調査特別委員会委員長報告）（以上、承認）
- ◇平成24年度柏原市一般会計予算の繰越明許費繰越計算報告について（報告）
- ◇監査委員（裏野榮士氏）の選任につき同意を求めることについて（同意）
- ◇竜田古道の里山公園調査特別委員会の調査経費に関する動議（賛成11人[公明党、柏原維新の会、日本共産党、市民・民主クラブ、会派に属さない議員1人]、反対5人[自由民主党新政会、会派に属さない議員2人]）
- ◇工事請負契約の締結について
- ◇事業契約の締結について
- ◇土地改良事業の施行について
- ◇寄附の収受について
- ◇柏原市事務分掌条例の一部改正について
- ◇柏原市子ども・子育て会議条例の制定について
- ◇柏原市認可地縁団体印鑑条例の制定について
- ◇市長の給料月額及び退職手当の額の特例に関する条例の制定について
- ◇柏原市乳幼児及び児童の医療費の助成に関する条例の一部改

- 正について
- ◇柏原市放課後児童会条例の制定について
- ◇平成25年度柏原市一般会計補正予算（第1号）（賛成13人[自由民主党新政会、公明党、日本共産党、市民・民主クラブ、会派に属さない議員3人]、反対3人[柏原維新の会]）
- ◇平成25年度介護保険事業特別会計補正予算（第1号）
- ◇平成25年度柏原市水道事業会計補正予算（第1号）
- ◇柏原市議会委員会条例の一部改正について（以上、原案可決）
- ◆平成25年度柏原市一般会計補正予算（第1号）の組み替えを求める動議（賛成3人[日本共産党、会派に属さない議員1人]、反対13人[自由民主党新政会、公明党、柏原維新の会、市民・民主クラブ、会派に属さない議員2人]）
- ◆平成25年度柏原市一般会計補正予算（第1号）の修正を求める動議（賛成4人[柏原維新の会、会派に属さない議員1人]、反対12人[自由民主党新政会、公明党、市民・民主クラブ、日本共産党、会派に属さない議員2人]）（以上、否決）

- *採決で賛否が分かれた場合は、会派名、または議員氏名のいずれかを掲載します。
- *一般採決では、可否同数にならないかぎり、議長は採決に加わりません。



竜田古道の里山公園調査

特別委員会委員長最終報告概要

前回、羽曳野市長から明かされた内容は、これまでの本会議等での前市長の発言の真意を強く疑わせるもので、その発言の真意やこれまでの疑問を質すため、前市長の証言や現副市長の意見を聞くため、6月13日、当委員会を開催した。

前市長への証人出頭要請に対して、同氏は「どうしても抜けられない大切な用件」を理由に、日程の変更を願い出、当委員会では協議した結果、願いを受け入れることとした。

次の出席日程等については、7月以降に再び証人出頭要請を望む委員意見もあったが、前市長に確認すべき内容について、

① 平成22年10月26日覚書締結の経緯については羽曳野市長談話で判明したと

② 本会議での前市長発言の真意については、副市長の意見において概ね理解できたことから、また、6月定例会の日程を考慮に入れ、前市長の出頭要請を見合わせることを賛成多数で決定した。

当委員会では、紹介された、羽曳野市長談話を、抜粋し報告する。

「平成18年10月の管理者会において、前柏原市長から『処分場の跡地を植栽を中心とした里山的な公園として整備したいので柏原市に無償で譲渡して欲しい。柏原市にはNPO法人があり、その団体にこの土地の整備を行わせたい。そのため、資機材の購入費用や桜の植樹など早

急に整備に要する費用が必要であり、公園維持管理費（後に5千万円と決定）について先行して貰いたい」と主張された。」

この談話において、平成25年2月5日、両市長において、平成22年の覚書は有効であることを確認したと、羽曳野市長は主張している。

この2月5日の会談について、羽曳野市長との間で、「柏原市がくれと言われない限りは渡さないし、柏原市がいらないことであればそれで結構です」との両市長の定例会での発言は、今回の羽曳野市長談話と正反対で、明らかに矛盾するが、柏原市の利益にはならないこと等の理由により、これ以上追求しないこととする。

これまでの定例会で前市長は、当該公園用地について、3市（環境事業組合）に返しても構わないとか、土地の名義は3市のままであり、針金がいっぱいあつて、うかうかももうわけにはいかんとか発言されたが、これらは、当該公園用地の譲渡については判断の誤りがあった、いわば失策であったことを前市長自ら認めたものであり、覚書を「破ってほつたら終わり」と発言されたことも、失策を認めた上で、独断で覚書を締結した責任を矮小化させる発言であったと考える。

今回の覚書等の総括として副市長は、これまでの協定書・覚書からは、柏原市が当該公園用地の譲渡を受けているのが実態であると思うが、登記簿上の名義変更がされておらない事実をもとに、環境事業組合構成市の中で、再度柏原市が取得するについて、維持管理費等を求め、もう一つ上の覚書を作る必要があると述べた。

竜田古道の里山公園については、平成14年の覚書のとおり、地元の意向をくみ、里山公園とし地元へ還元することは当然と考える。当初、柏羽藤環境事業組合の事業責任者としての責務が、地元説明や議会への相談なく、平成22年に無償譲渡の覚書を交わし、柏原市単独負担になっていたことが、昨年判明したことから、百条調査を開始することになった。調査によつて、平成18年に前市長が事業組合を構成する他の2市長に半ば強引に譲渡を申し入れたことや、当該公園の維持管理において、不明朗なNPO法人への委託料の使われ方やさまざまな職員の管理体制等が明らかになった。

当委員会の目的は、柏原市単独負担となつた疑惑を解明することであつたが、各委員の思いは、柏原市民が、いわれない負担を強いられないよう、覚書を白紙に戻すことであつた。ごみ最終処分場の管理責任は、未来永劫、共同責任者である3市が負つことに変わりはない以上、柏原市1市が、公園の管理責任を負つとする覚書は極めて危険であることから、当該覚書の白紙撤回は、他の2市に対し、強く訴えるのが当然である。

竜田古道の里山公園については、環境事業組合負担及び責任のもとであれば、整備についての主体は問わず、地元雁多尾畑地区の意見を十分反映した公園として、また、3市友好の証しとして、3市民憩える自然豊かな公園にしたいとすることを、当委員会は願うものである。

これまでの内容を整理し、竜田古道の里山公園調査特別委員会調査報告書（案）をまとめるため、当委員会を6月25日開催し、調査により判明した不明朗な支出において監査請求を求める等の意見があ

り、加筆修正の提案の後、報告書（案）が了承された。

最終報告にあたり、一言述べさせていただく。当委員会は、昨年6月29日、設置されてから、1年が経過した。この間、15回開催され、延べ13人の参考人出席いただいた。委員会以外でも、各委員は、提出資料の分析、現地調査、打ち合わせ会議等、熱心に精力的に調査活動を行っていた。委員長として厚く御礼申し上げる。

この竜田古道の里山公園の問題に関して、これまで委員長報告してきたように、調査により多くのことが判明した。判明した事実から、問題のほとんどが前市長に起因すると委員会は推理する。

自らの責任を棚上げにし、実務者等に転嫁するとも思える発言、また、現場の意向という重要なことを聞かずものごとを決定する上層部の体質がこれから改善していくことが重要であると思う。

残念ながら、前市長は、最後まで問題解決に向け、真摯な取り組みが見受けられなかった。しかし、幸いにも、現市長は、ねばり強く交渉すると前向きな発言を再三されている。今後の現市長の交渉及び各議員の後押しにより、この公園の問題が解決することを心待ちにしたいと思う。このときが、当委員会の成果がようやく実現したと思えるときではないかと思うのである。

現市長には、市長在任中に、解決すべき重大な政治課題として、これまでの言葉どおり、必ず取り組むことをお願いし、最後となる竜田古道の里山公園調査特別委員会委員長報告を終ることとし、議会から付託を受けた竜田古道の里山公園の調査の終了を報告する。

常任委員会の行政視察を行いました



市民福祉委員会は5月13日～14日に石川県小松市と能美市を訪れました。小松市では、南加賀救急医療センターについて視察し、救急医療センターの実情のほか、小松市民病院の病院経営についてもご教示いただきました。今回、視察した内容について、今後、市立柏原病院にも参考になることが数多くありました。

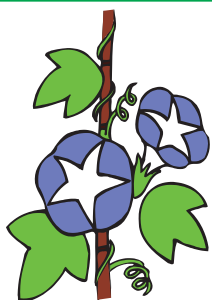


能美市では、子宝支援給与金支給について視察しました。不妊症と不育症の治療費一部助成をはじめ、子育て支援に様々、取り組まれており、課題や成果について説明を受けると、各委員から、熱心に質問が出されました。

建設産業委員会は、5月15日に長野県飯田市、16日に滋賀県東近江市を訪問しました。飯田市では、太陽光発電システムを初期投資0円で設置できる「おひさま0円システム」について、東近江市では、市民出資の太陽光発電所で得た売電益を地域商品券で市民に還元して、地域経済を活性化させたり、自治会費をまかなったりする「東近江モデルと地域自立の仕組みづくり」について学びました。福島原発の事故以来、クリーンエネルギーとして関心の高い太陽光発電について先進市の画期的な施策を、今後の本市での取組の参考事例として理解を深めることができました。



総務文教委員会は、5月16～17日に、岡山県津山市と倉敷市を訪問しました。津山市では、市と協働で事業を行うことを前提に、公募により事業実施団体に補助金を出す「公募提案型協働事業」について、倉敷市では、「指定管理者の選定方法に新たな方式（更新制）を導入したこと」のメリット等について学びました。両市とも施策に取り組む担当者の熱意が、こちらにも伝わってきて頼もしく思うと共に、今後の柏原市の施策にとって大変参考となる視察となりました。



◎は委員長
○は副委員長

編集委員
大坪 孝
堅木 照久
山本 真見
田中 秀昭
岸野 美子
奥山 渉

大阪府知事表彰

平成25年5月7日、永年にわたり市政の振興に努められ、その功績著しいものがあるとして、藤森洋一議員が大阪府知事表彰を受賞されました。



陳 情 等

- 「オスプレイの低空飛行訓練中止と配備撤回を求める議会意見書」を採択する要請
安保破棄・諸要求貫徹大阪実行委員会
(この陳情は、議長預かりとなりました。)

第1回臨時会（予定）

月 日	会 議 名	内 容
7月29日(月)	本 会 議	議案説明、質疑、採決

第2回臨時会（予定）

月 日	会 議 名	内 容
10日4日(金)	本 会 議	議案説明、質疑、採決

第3回定例会（予定）

月 日	会 議 名	内 容
10月8日(火)	本 会 議	議 案 説 明
21日(月)	本 会 議	会派代表質疑・質問
22日(火)	本 会 議	会派代表質疑・質問
24日(水)	総務文教委員会	付 託 議 案 審 査
25日(金)	市民福祉委員会	付 託 議 案 審 査
28日(月)	建設産業委員会	付 託 議 案 審 査
31日(木)	本 会 議	各委員長報告、採決

※いずれの会議も午前10時からです。 ※日程は変更する場合があります。

柏原市議会ホームページ

柏原市議会のホームページでは、本会議の録画
中継や市議会会議録など、市議会の情報等がご覧
になれます。

柏原市議会ホームページアドレス
<http://www.city.kashiwara.osaka.jp/gikai/>